

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鳥取県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	三朝町立西小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	20
児童数	34	41	50	52	47	47	3	274	

研究の概要

1. 研究主題

<p>豊かな心を持ち、自ら学ぶ意欲に満ちた子供の育成 ～一人ひとりが輝き、ともに学び、共に生きる子どもをめざして～</p>
---

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>・全学年・算数 本校児童の実態から、学力をつけるための手だてを講じる必要があると判断される教科である。また、全職員が研究に関わることによって、既存の優れた指導法を互いに学び合う機会とする。</p>
---

(2) 年次ごとの計画

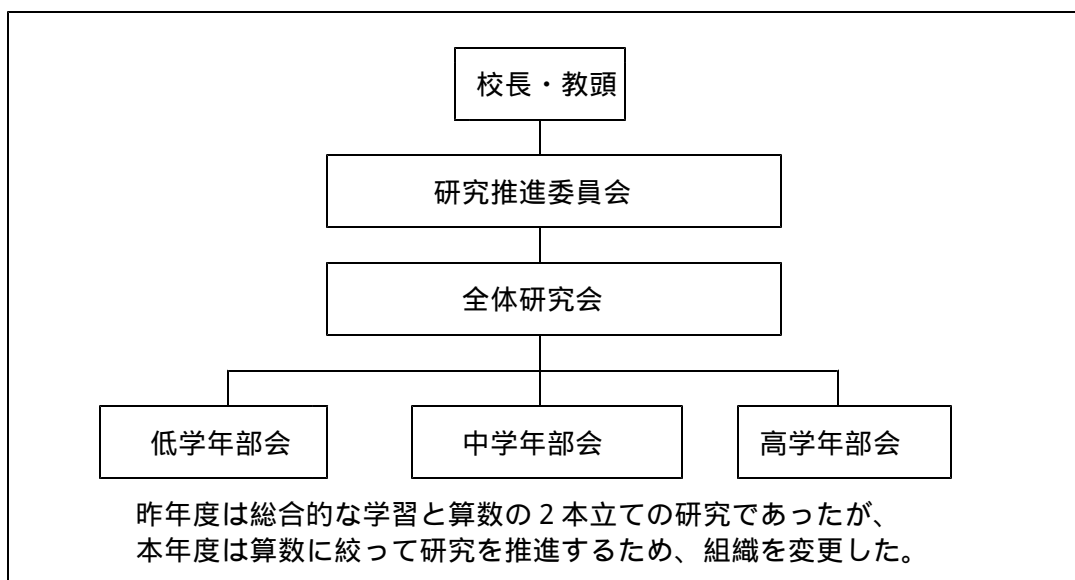
平成14年度	<p>テーマ 教師の支援と子ども同士の学び合いに重点を置いた指導方法の工夫 研究の見通し(仮説) 個人差に応じた指導方法や形態を工夫し、子ども同士の学び合いを大切に にした問題解決的な学習を進めていけば、主体的な学びや確かな学力に つながる力を持った子ども達を育成することができるのではないか。 研究の内容・方法 1 少人数指導を行い、個人差に応じた指導を行う。 2 既習事項を生かすことのできる工夫をする。</p>
--------	--

平成15	<p>テーマ 教師の支援と子ども同士の学び合いに重点を置いた指導方法の工夫 研究の見通し 個人差に応じた指導方法や形態を工夫し、子ども同士の学び合いを大切に にした問題解決的な学習を進めていけば、主体的な学びや確かな学力に つながる力を持った子ども達を育成することができるのではないか。 研究の内容・方法</p>
------	--

年度	<p>1 研究の柱</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶ力を育てる学習展開の工夫を行う。</li> <li>・学びを支える基本的な力の向上のための手だてを探る。</li> <li>・家庭との連携の推進を図る。</li> </ul> <p>2 全学級算数授業研究会の開催</p> <p>3 一人一研究の実施と年2回のプレゼン大会の実施</p> <p>* 児童の学ぶ力を支える要素を見直し、3つの柱と二つの方法で研究を推進することとした。</p>
----	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>教師の支援と子ども同士の学び合いに重点を置いた指導方法の工夫 研究の見通し</p> <p>個人差に応じた指導方法や形態を工夫し、子ども同士の学び合いを大切にした問題解決的な学習を進めていけば、主体的な学びや確かな学力につながる力を持った子ども達を育成することができるのではないかと。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>1 研究の柱</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶ力を育てる学習展開の工夫を行う。</li> <li>・学びを支える基本的な力の向上のための手だてを探る。</li> <li>・家庭との連携の推進を図る。</li> </ul> <p>2 評価と支援の一体化について探る。</p> <p>3 授業研究の機会を通して、校内の共通実践を積み上げる。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>(1) 特に成果が上がったことから</p> <p>問題解決に向けて、既習事項をいかして自己の考えを表現する子の育成。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決的な指導過程を取り入れ、自力解決においては、既習事項をいかして、問題解決にあたることができるように、指導を重ねた。特に、問題把握</li> </ul>
---

や課題解決の道筋をノートに表現することができるような支援を意識して行った。これにより、次のような成果が見られた。

- ・学習開始への取りかかりやノート作業への取りかかりが早くなり、効率的な学びができるようになってきた。
- ・既習事項をもとに新たな問題について考えることにより、新しい学びを意識することができるようになってきた。
- ・自分なりの方法で最後まで自力解決できる児童が増えてきた。
- ・ノートに書かれている既習事項を参考にして、新たな課題を解決しようとする姿勢が身に付いてきた。
- ・多様な考え方を作り出したり聴き合ったりして学習する力が身に付きつつある。

#### 少人数指導の効果

- ・少人数指導を行うことが、個々の児童の多様な思考を引き出すことにつながり、また、自己表現の場が以前より保証されるようになり、安心して学習できることから学習意欲の高揚につながってきた。

#### (2) 有効であった具体的な手だて

問題解決の学習過程に個に応じた支援を埋め込むこと。

それは、既習事項をいかす学び方を身につけさせることになる。また、自力解決に向けた支援となる。具体的には以下のような手だてである。

- ・問題把握においては、既習事項と「同じところ」「ちがうところ」を明確に意識させる。
- ・問題場面を、文字や絵、図などを使って表わすこと。
- ・自力解決にあたっては、ノートづくりをしっかりとさせることによって、既習事項を課題解決に生かすことができ、自分の考え方の足跡を残すことにつながる。
- ・図や絵、言葉を使って考え方を表すための方法を、いくつか示す。
- ・例えば、こんな言葉で書き始めよう。
- ・まず... はじめに... つぎに... だから... 式を一つにまとめると... 別々にすると... 簡単な数に置き換えると... 「2」は「2000」のことだから... あと足りないのは...だから... 今までの問題とちがうのは...だから...
- ・こんな書き方をして考え方を表そう
- ・簡単な絵に表すと... 一つ一つを図や記号で表すと... 矢印や箱を使って関係図にしてみると... 線分図にしてみると... 図と式を並べてみると... 表に書いてみると... 式に書いてみると...
- ・各人の考え方や表し方は様々であるので、話し合いの過程でそれらと比較することによって、意味理解を確かにしていく。
- ・話し合いの過程では、自分の考えの間違いに気づいても、その考え方の跡を残すようにする。自分のノートに付け加えて書き込み、自分だけのノートにしていく。友達の考え方も書き込んでいく。

学習の流れの中に、多様な解決方法を練り合う場面を位置づけ、授業の流れを児童にもわかりやすくするために、板書とも連動させる。

生活に生きる算数にしていくために、身近なものを教材にし、具体的操作や体験的活動を重点にすることも時に有効である。その学習活動の中に、数概念の形成を意識する。

## 2. 今後の課題

<p>研究の柱は継続しつつ、特に以下の点について研究を深めること。</p> <p>(1) 学ば力を育てる指導の手だてはいかにあるべきか。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 学習過程で解決の方法を身につけさせるための手だて</li><li>・ 話すこと書くこと、表現することの力をつけるための手だて</li></ul> <p>(2) 個に応じた指導の手だてはいかにあるべきか。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 一斉授業の中で個に応じる支援</li><li>・ 個々のスキルを上げるための手だて</li></ul> <p>(3) 少人数指導の手だてはどうあるべきか。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ クラス編成と指導の手だて</li></ul> <p>指導と評価の一体化について、授業の中になにかに埋め込んでいくかを。</p>
--

### 学力等把握のための学校としての取組

<p>NRT学力検査...全学年の学力調査、国語・算数・理科・社会、2月 月例テスト...国語算数の基礎的事項の定着をはかる。全学年、毎月 鳥取県基礎学力調査...学習状況の実態を把握する。3年と6年 1月 鳥取県学力診断テスト...国語と算数について到達度を診断する。全学年 2月</p>
---

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<p>研究成果普及については、HPにて、情報発信の予定。</p> <p>15年度研究成果発表</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 中部地区学力向上推進協議会(1月27日)</li><li>・ 鳥取県教育研究発表会(2月10日)</li></ul> <p>校内研修会において、石川県東明小学校(フロンティア研究校)と意見交換の機会を得て、相互に研究実践を学び合うことができた。</p>
---

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |   |  |  |                             |
|----------------------|---|--|--|-----------------------------|
| 【新規校・継続校】            | <input type="checkbox"/> 15年度からの新規校         | <input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校 |  |                             |
| 【学校規模】               | <input type="checkbox"/> 6学級以下              | <input type="checkbox"/> 7～12学級                |  |                             |
|                      | <input checked="" type="checkbox"/> 13～18学級 | <input type="checkbox"/> 19～24学級               |  |                             |
|                      | <input type="checkbox"/> 25学級以上             |  |  |                             |
| 【指導体制】               | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導   | <input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導   |  |                             |
|                      | <input type="checkbox"/> 一部教科担任制            | <input type="checkbox"/> その他                   |  |                             |
| 【研究教科】               | <input type="checkbox"/> 国語                 | <input type="checkbox"/> 社会                    | <input checked="" type="checkbox"/> 算数 | <input type="checkbox"/> 理科 |
|                      | <input type="checkbox"/> 生活                 | <input type="checkbox"/> 音楽                    | <input type="checkbox"/> 図画工作          | <input type="checkbox"/> 家庭 |
|                      | <input type="checkbox"/> 体育                 | <input type="checkbox"/> その他                   |  |                             |
|                      |   |  |  |                             |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有       | <input type="checkbox"/> 無                     |  |                             |